行事報告

カップリング・インターンシップ（CIS）活動報告(ドイツ／ベルギー)

グローバルダイバーシティ＆インクルージョン推進室
准教授 勝又 美穂子

8 月 12 日～8 月 23 日（移動含む）の約 10 日間で、ドイツ・デュッセルドルフから車で 30 分のメンヒェングラートバッハに位置する OTC ダイヘンヨーロッパ(OTCE)にてカップリング・インターンシップ（CIS）を行いました。今回の参加学生は、大阪大学の外国語学部 2 名、工学研究科 2 名、KU ルーベン大学（ベルギー）工学部 1 名、人文学部 3 名、の計 8 名でした。

デュッセルドルフにて阪大学生と現地学生が合流し、1 日目には事前研修として両大学学生より日本とベルギーの紹介、日本企業の紹介、コミュニケーションの基礎、CIS 課題へのチーム協議などを行いました。8 月 15 日からの 4 日間は OTCE にて、企業紹介、各部署の取り組みなどを学ぶと共に、役割や役職の異なる多くの皆様とのインタビューを通して幅広く学習しました。また、溶接ロボットの操作やマニュアル溶接の体験も行い、溶接技術についても知見を深めました。参加学生は、事前に企業から提示頂いた実習テーマ、「OTCE における多様な視点での働き方と次世代を担う人材の育成」に関してインタビューでお聞きした意見や情報、自身の経験を踏まえ、連日熱い議論を交わしました。

4 日間の企業実習を終えた後は、長距離列車とローカル列車を乗り継ぎ、デュッセルドルフからベルギー・ルーベン市へ移動しました。

8 月 21 日（月）には、KU ルーベン大学（KUL）の施設にて、OTCE より社長 Mr.Kleinendonk、副社長西野様、吉野様、そして KUL からは工学部副部長 Prof.Eneman、工学部 Prof.Sharma、同国際担当 Ms. Lauwereys、人文学部教授及び日本・韓国地域協議会 KUL 代表 Prof.Vanoverbeke、接合研からは所長藤井教授が、その他オンラインにて本学外国語学部や接合研から複数名が参加の下、最終報告会を開催しました。学生達は二チームに分かれ、テーマに対する考察や提案を行いました。文化や役割の違いをどうダイバーシティの利点として取り入れ理解し合うか、そのために若い世代が果たせる役割は何か等が発表されました。

OTCE の Kleinendonk 社長からは学生達の発表による改めての気づきが多くあり、業務の中で実行に移すのは容易ではないものの、今後検討していきたいとのお言葉がありました。

10 日間という短い時間でしたが、ヨーロッパという広大な市場でご活躍の企業で学べた経験、多様なメンバーと関係を深めた体験は学生にとってかけがえのない貴重な時間となりました。

改めて、受け入れて頂いた OTCE の皆様、そして連携頂いた KUL の皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。